



平成 19 年 11 月 15 日

各 位

会 社 名 大和自動車交通株式会社
 代表者名 取締役社長 新倉 能文
 (コード番号 9082 東証第 2 部)
 問合せ先 取締役社長 新倉 能文
 (TEL . 03 - 3564 - 4954)

中間業績予想及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 5 月 15 日決算発表時に公表した(連結)及び(個別)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1 . 平成 20 年 3 月期連結中間期業績予想数値の修正(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	百万円 13,500	百万円 350	百万円 150	百万円 80	円 銭 7.63
今 回 修 正 予 想 (B)	13,270	143	26	28	2.67
増 減 額 (B - A)	230	201	176	52	4.96
増 減 率 (%)	1.7	57.4	117.3	65.0	65.0
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 3 月期中間)	13,226	284	112	114	10.95

2 . 平成 20 年 3 月期個別中間期業績予想数値の修正(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	百万円 7,900	百万円 200	百万円 60	百万円 60	円 銭 5.73
今 回 修 正 予 想 (B)	7,840	123	35	73	6.97
増 減 額 (B - A)	60	77	95	13	1.24
増 減 率 (%)	0.76	38.5	158.3	21.7	21.6
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 3 月期中間)	7,833	200	50	77	7.41

3. 平成20年3月期連結通期業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 27,000	百万円 700	百万円 250	百万円 180	円 銭 17.18
今回修正予想(B)	26,800	400	50	100	9.54
増減額(B-A)	200	300	200	80	7.63
増減率(%)	0.7	42.9	80.0	44.4	44.4
(ご参考) 前期実績(平成19年3月期)	26,781	638	250	307	29.37

4. 平成20年3月期個別通期業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 15,900	百万円 480	百万円 140	百万円 120	百万円 11.45
今回修正予想(B)	15,800	300	30	80	7.63
増減額(B-A)	100	180	110	40	3.82
増減率(%)	0.6	37.5	78.6	33.3	33.3
(ご参考) 前期実績(平成19年3月期)	15,818	385	82	205	19.65

5. 修正の理由

(1) 連結

当社、連結子会社及び持分法適用会社において、売上高は旅客運送事業ではタクシー運賃改定が当初予想に比べ大幅に遅れ、これがハイヤーの運賃改定交渉にも影響し、前期に引続き微減となりました。販売事業ではガソリン及びLPG市況は厳しい状況が続き販売価格への転嫁が進まず増収したにもかかわらず仕入価格高騰により増収・減益となっております。経常利益については経費の節減に努めてまいりましたが、燃料費の大幅な高騰、前期に取得した不動産の減価償却費及び車両リース料の増加などにより当初予想より176百万円減少、中間純利益は、投資有価証券売却益94百万円及び事業損失引当金取崩226百万円を特別利益に計上し、租税特別措置法の改正に伴い役員退職慰労引当金122百万円を特別損失に計上し、当初の予想より65.0%減少し28百万円となる見込であります。

12月実施のタクシー運賃改定が認可されましたが、現状では燃料費低下が見込めない状況にあります。通期予想について、売上高26,800百万円(0.7%減少)、経常利益は50百万円(80.0%減少)、当期純利益は100百万円(44.4%減少)と修正いたします。

(2) 個別

ハイヤー・タクシー売上高はタクシー運賃改定が当初予想に対し大幅に遅れ、これがタクシーのみならずハイヤーの運賃改定交渉にも影響し、前期に引続き微減となりました。経常利益については経費の節減に努めてまいりましたが、燃料費の大幅な高騰、前期に取得した不動産の減価償却費及び車両リース料の増加などにより当初予想より95百万円減少しました。中間純利益は、投資有価証券売却益94百万円及び事業損失引当金取崩226百万円を特別利益に計上し、租税特別措置法の改正に伴い役員退職引当金87百万円を特別損失に計上し、当初予想より21.7%増加し73百万円となる見込であります。

また、12月実施のタクシー運賃改定が認可されましたが、現状では燃料費低下が見込めない状況にあります。通期予想について、売上高は15,800百万円(0.6%減少)、経常利益は30百万円(78.6%減少)、当期純利益は80百万円(33.3%減少)と修正いたします。

以 上